

2011年3月に始まった(公財)日本ユニセフ協会(東京都港区)の「東日本大震災で被災した子どもの支援に関わる分野での緊急・復興支援活動」は2016年12月末をもって終了しました。この5年10ヵ月にわたる活動の中で得られた経験や教訓は、復興が進む地域でも、今後災害の発生が予想される地域でも、さらには海外でも、今後への備えや日々の活動に生かされはじめています。

詳細は、日本ユニセフ協会HPの「[日本ユニセフ協会東日本大震災緊急復興支援報告](#)」を参照。



▲日本ユニセフ協会東日本大震災緊急復興支援報告から転載▲

1. 被災地山田町に誕生したCAP リアス

東日本大震災緊急復興支援活動の一つとして、被災3県に「子どもが暴力から自分を守るCAPワークショップ」が広がりました。県内のCAP岩手(盛岡市、高橋寿美子代表)に加え、東日本大震災復興支援活動として日本ユニセフ協会&J-CAPTAの支援のもとに、2014年4月にCAPリアス(宮古市、石井 良信代表)が山田町に誕生しました。自らも被災し言葉には表せない悲嘆を背負いながらも、地域の子どもの権利を守ろうとCAPスペシャリスト養成講座に民生児童委員、保健師さん、看護師さん、学校・幼稚園・保育園の先生方が参加しました。これまでに、山田町幼稚園・保育園のワークショップや大洋学園職員・低学年・高学年によるワークショップを開催しました。



▲職員向けのワークショップの様子



▲ファシリテーターJ-CAPTA 木村さんとCAPリアスメンバー

CAPとは

C h i l d A s s a u l t P r e v e n t i o n

子どもが暴力から自分を守るための学習プログラム

こどもワークショップ・おとなワークショップがあります。

CAPリアスお問い合わせ先： 事務局福士久美子 090-6688-3406

2. 茨城県ユニセフ協会からの支援

茨城県ユニセフ協会では、久慈市宇部町の小袖保育園との交流支援を続けています。2014年から園児たちに甚平や手芸品などを届けており、2017年2月、毛糸のクッションやウレタンマットをお送りしました。これらを活用している様子が小袖保育園から送られてきました。元気な園児たちの様子が分かります。茨城県ユニセフ協会のボランティアのみなさまありがとうございました。



▲毛糸のクッションとウレタンマットの上で遊ぶ園児たち▲